



浅間山麓の縄文の女性たち 画:安芸 早穂子

縄文の原風景

縄文人というと、ひと昔前までは、毛皮1枚を腰にまとい、野山に動物を追いかける野蛮で原始的なイメージがあった。しかし、近年の発掘調査の成果は、そんな縄文人のイメージを塗り替えている。

日本国内のいくつかの遺跡からは、縄文人の衣服の断片がみつかっている。また、土偶にも、衣服をあらわしたとみられる表現がある。おそらく、手のこんだ模様をつけた衣服を身にまとい、オシャレな人たちだったにちがいない。

最近の考古学的成果をもとに、描かれたのが上の絵である。場所は、真楽寺の大沼の池、4500年前の浅間山麓の縄文の女性たちが、水を汲む様子を描いた。縄文の世界を描き続けている画家の安芸早穂子さんの絵である。はるか縄文時代も、この池の水が縄文の人たちの喉をうるおしていたことはまちがいない。

女性が着ている服は、おとなりの川原田遺跡から出土した縄文土器の文様を参考に復元した。

遠き縄文時代の浅間山麓は、実際、どのような風景だったのだろうか。



縄文御柱 画:安芸 早穂子

あきさほこ 安芸早穂子 縄文原画展“Jomon 御柱”

■4月1日(土)~4月16日(日) 50点の原画を展示!

■浅間縄文ミュージアム 企画展示室 入場無料!